

PAT-NO: JP359044537A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 59044537 A
TITLE: CONTINUOUS ROOF VENTILATOR
PUBN-DATE: March 13, 1984

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
SAKAMOTO, MITSUO

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME COUNTRY
SAKAMOTO MITSUO N/A

APPL-NO: JP57153579

APPL-DATE: September 3, 1982

INT-CL (IPC): F24F007/02, F24F007/04

US-CL-CURRENT: 454/365

ABSTRACT:

PURPOSE: To miniaturize the titled ventilator without deteriorating the ventilating efficiency by a method wherein the first louvers are provided so that they may cover the effective width of an opening under both ends of a roof while the second louvers are provided so that they may incline to both ends of the roof declining downward in proportion to the distance from the roof.

CONSTITUTION: The first louvers 22, 23 are provided so that they may cover the effective width of an opening 25 under both ends of a roof 21 while the second louvers 26...26<SB>1</SB> are provided so that the upper ends of them may be opposing to both ends of the roof 21 declining downward in

proportion to
the distance from the roof 21. In such a constitution, the titled
ventilator
may be miniaturized making it light-weighted and its insallation
easier because
the roof 21 becomes an upper and lower part separating type
comprising the roof
21 and the fist louvers 22, 23 making the second louvers 26 further
approach to
the roof 21.

COPYRIGHT: (C)1984,JPO&Japio

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—44537

⑮ Int. Cl.³
F 24 F 7/02
7/04

識別記号

庁内整理番号
Z 6803—3L
B 6803—3L

⑯ 公開 昭和59年(1984)3月13日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑰ 連続式ルーフベンチレータ

松戸市稔台774番1号

⑱ 出 願 人 坂本光男

松戸市稔市774番1号

⑲ 特 願 昭57—153579

⑳ 出 願 昭57(1982)9月3日

㉑ 代 理 人 弁理士 辻三郎

㉒ 発 明 者 坂本光男

明 細 書

1. 発明の名称 連続式ルーフベンチレータ
2. 特許請求の範囲

笠板の両端下方に一個以上の第1のルーバーを設けて笠板と第1のルーバーとで有効幅開口を覆い、前記笠板の両端に複数個の第2のルーバーを上端が笠板側へ向かう如く傾斜して設け、該第2のルーバーの上端が笠板からはなれるにしたがって低くなることを特徴とする連続式ルーフベンチレータ。

3. 発明の詳細な説明

本発明は換気効率をかえることなく小型化低コスト化を達成した連続式ルーフベンチレータに関する。

本願出願人は連続式ルーフベンチレータの高さを抑えるため、笠板の両側にルーバーを設けた構造を提案した。(実公附53—17645号公報)

本発明は上記提案のベンチレータの改良に係るもので、高さ方向の他に幅方向も小さくす

ることを目的とする。

以下、図によって詳細に説明する。

従来のベンチレータは第1図に示す如く笠板1の上方をケーシング2で囲っていたため、高さ H_1 が高く、取付工事を困難とし、かつ材料費が高く、さらに風圧荷重に対する強度も一層十分としなければならぬため、建設コストが高いものとなっていた。

これを改良するものとして、第2図に示すような笠板11の両側にルーバー12を設ける構造が提案され、実公附53—17645号として公知となっている。第2図のものでは、有効面積値 P を維持したまま高さを h_1 まで低くすることができるとなった。

ところが、第2図のものではベンチレータの幅 W_1 が未だ大きいため、この幅 W_1 を小さくした一層良好な構造が望まれていた。

以下、本発明について、第3図を参照して説明する。

笠板21の両端下方にはルーバー22が設け

られ、ルーバー22は笠板21の両端と一部重なり合っている。ルーバー22のさらに下方にはルーバー23が設けられてもよい。このようにして、笠板21とルーバー22、23とが協同して屋根24の有効幅開口25を覆うものとなっている。

笠板21の両端にはルーバー26が設けられ、ルーバー26は上端が笠板21側へ向かう如く傾斜して設けられる。ルーバー26のうち、最も笠板21に近いものは前記ルーバー22の略上方に位置するものとなっている。又、この説明では最も外側のルーバー26_iはケーシング27の上端に設けられたものであり、ルーバー26_iはケーシングとみてもよい。

ルーバー26の上端は笠板21からはなれるに従って低くなっている。

本発明による連続式ルーフベンチレータは上記の構成となっているので、次のような特異な効果を奏するものである。

笠板とその両端下方の第1のルーバーとが相

俟って上下分割型の笠板となっているため、第2のルーバーを一層笠板側へ寄せることができるようになった。このため、換気のための有効幅をかえることなくベンチレータの幅を一層小さいものとすることができる。(第3図の W_1 と W_2 参照)

第2のルーバー上端を外側へ向けて傾斜させてあるので、この分軽量化、取付工事の簡単化がえられるとともに、風圧荷重も小さくなって設計の自由度が増す。

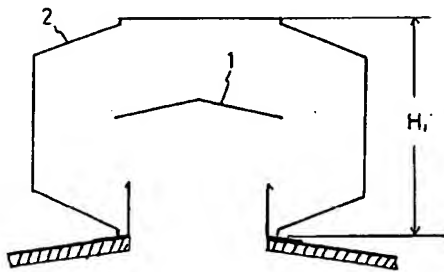
材料費の節約、コストダウンが得られる。

4. 図面の簡単な説明

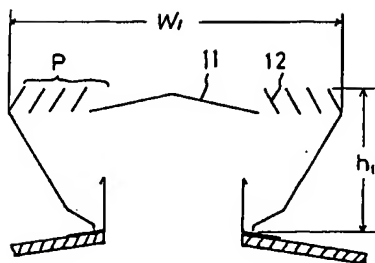
第1図は公知の連続式ルーフベンチレータの略断面図、第2図は本出願人の提案になる公知の連続式ルーフベンチレータの略断面図、第3図は本発明の一実施例を示す略断面図である。

代理人 弁理士 辻 三 郎

第1図



第2図



第3図

